

当資料は 8/30(木)大阪機械記者クラブ・自動車産業記者クラブ
にて資料配布させていただいております。

2007年8月30日

報道関係各位

自然災害、テロなど緊急時の遺体腐敗を遅延させる
モリタ「遺体腐敗遅延腐敗臭抑制袋」を開発

消防車の開発・製造・販売を手がける株式会社モリタ(本社:大阪・東京、代表取締役社長:中島正博、東証・大証 1部)は、地震・津波・台風などの自然災害やテロ犯罪などによる犠牲者の遺体腐敗を遅延させ、長期の安置・保存可能な遺体腐敗遅延腐敗臭抑制袋を開発しました。

近年、世界規模で大規模な地震・津波・台風などの自然災害の発生や、不安定な国際情勢等から大規模なテロ犯罪の発生が懸念されています。このような突然の災害時に多くの犠牲者が出た場合、被災現場では遺体の腐敗の進行により、収容及び身元確認の作業が妨げられているのが現状です。またそれらの作業の長期化により、体内細菌などの増殖から発生する病原菌感染等の二次災害も問題となっております。

今回の開発商品は、災害時などに電気・ガスなどの供給が遮断され、遺体を低温保存できない状況下においても、遺体の腐敗を遅延させるとともに腐敗臭を抑制することを目的としております。このための工夫として、バリア性の高い材質を採用することで腐敗臭の外部への漏洩を防ぎ、付属の脱気口により空気(酸素)を容易に袋の外に排出することができ、遺体と空気(酸素)との接触を低減させ腐敗を遅延させます。さらに脱酸素剤・抗菌剤を封入することにより、体内細菌の増殖を抑制し、伝染病の蔓延などによる二次災害の可能性を低減いたします。また、本開発品は、上面にポケットを設けておりますので、遺体情報の保管・管理を迅速に行うことができます。



遺体腐敗遅延腐敗臭抑制袋に関する概要は別紙のとおりです。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社モリタ 広報室 浦野 TEL.03-5777-5088

「遺体腐敗遅延腐敗臭抑制袋」の概要

■ **サイズ:** 全長 250cm×全幅 100cm×マチ 29cm

■ **製品特長:**

バリア性の高い材質を複数重ねることで外部への腐敗臭の漏れを抑制し、脱酸素剤・アルコール揮散剤(抗菌剤)を封入することにより腐敗の遅延が可能になります。

また、収納時の作業性向上を目的として、開口部を横面ではなく上全面に設けています。さらに不透明な素材を採用し作業者に配慮しています。

- ・ 遺体と外気を遮断できる機密性の高い袋を使用
- ・ 袋内の空気を容易に脱気できる構造
- ・ 脱酸素剤により、完全な脱気が出来なくても腐敗遅延が可能
- ・ pH、物性等が異なる様々な腐敗臭に対応するため、3層の活性炭を使用（オプション装着時）
- ・ 上面のポケットにより遺体情報の一元的な保管・管理が可能

■ **オプション：腐敗臭抑制筒**

- ・ 体内から派生する腐敗ガスは3層からなるガス吸着剤を通過することで臭気が抑制されて外部に放出されます。



100cm
製品サイズ



腐敗臭抑制筒

以上